

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年 1月 13日

1. 職名・氏名 准教授 上木 礼子

2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井大学、授与年 2005年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 看護マネジメント学（1単位 4年前期集中）
②内容・ねらい（自由記述） 内容:看護サービスを提供していくための看護管理の概念、看護の提供システム、看護サービスの質保証を学ぶ。質の高い看護サービスを提供するための看護職者の役割を看護管理の視点から考える。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 統合実習の位置づけになる。今年度から「地域・在宅看護」分野とのオムニバス形式になったため管理的視点に焦点を当てた講義内容にした。また外部講師としてPNS(パートナーシップナーシングシステム)開発に関わった橘先生を迎え理解を深めた 【ゲストスピーカー 1名】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 健康生活支援演習(1単位 1年前期(分担))
②内容・ねらい（自由記述） 内容:学習したコミュニケーション技術を踏まえて地域で暮らす高齢者との交流を行い、生活環境や人々がかかえる生活・健康上の問題について理解し看護学を学ぶための基礎力を養う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 初回授業に”演劇ワークショップ”を導入、コミュニケーションの根本となる身体動作を考えると同時に、クラスメンバーとの関係性構築にも役立ち、その後のクラス運営にも役立った。学外演習で、永平寺町健康長寿クラブの方々と新町ハウスを利用した交流会を実施し、地域の歴史や人々の生活歴などから健康課題にも視野を広げることができた。 【ゲストスピーカー 1名、フィールドワーク 1件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護技術（2単位、1年前期（分担）、臨床看護技術（2単位、1年後期（分担）新カリキュラム
②内容・ねらい（自由記述） 内容：基礎看護技術は病床環境の整備と衣生活の援助の項目を担当。臨床看護技術は排泄の援助と呼吸・循環・体温異常時の看護を担当した。ねらい：受講生がすでに学習している解剖・生理と関連して、根拠を踏まえた看護技術の基本が理解できる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・ オンラインへの変更もしやすいよう講義日と演習日にわけて内容を組み立てた。実際は対面で講義・演習ができたので指導しやすかった。 ・ 動画教材に関して書籍やWebサイトの情報を活用した。動画教材は情報量も多く初学者にイメージを持たせるのに効果的であり今後も有効に活用していきたい。 ・ 演習は既存のシミュレーターを十分活用でき学生間に不公平が起きないようにプログラムを工夫した。実技テストを設定していたので学習意欲は高く維持できた。シミュレーターの経年劣化問題があり領域内で検討することになった。 ・ 昨年に続きロールプレイを取り入れ、病室の訪室、挨拶から観察・ケア実施まで一連の行動をシミュレーションする学習ができた。これまでの学習内容を統合しながら、知識と実践の連携を深めるきっかけになる学習方法だと考える。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎看護学実習Ⅰ（1単位、1年後期（分担）・基礎看護学実習Ⅱ（2単位、2年前期（分担） 看護マネジメント学実習（2単位、4年前期（分担）
②内容・ねらい（自由記述） 内容：県内総合病院での臨床看護実習 ねらい：基礎看護学実習Ⅰでは医療施設、看護師の役割を理解すること、基礎看護学実習Ⅱでは、受け持ち患者に対して看護過程の展開ができること。看護マネジメント実習では病院組織における看護管理とケア提供システムの運営について実際を通して理解すること。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・看護マネジメント学実習は6月7月の上旬に前半後半各1施設で1週間実施した。訪問看護ステーションでの1週間実習と合わせ、看護提供の場の違いによるマネジメントの特徴を知る機会とした。 ・病院施設の感染対策指針にも基づき、実習前行動の注意や体調管理に留意しながら実施した。 ・基礎看護学実習Ⅱは福井県立病院と福井赤十字病院での実習を担当。学生と患者のコミュニケーションや情報収集・アセスメントを支援した。環境整備など看護師について受け持ち患者以外への技術を体験する時間を設けたことで、1年次の総括として学びが深まった。 ・基礎看護学実習Ⅰはこの報告書記載時点でまだ実施していないが、感染症予防策に留意しながら、学生が事故なく自律して実習に臨めるように取り組みたい。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 卒業研究（3単位、4年次）
②内容・ねらい（自由記述） 内容：看護研究へ自律的に取り組み成果を発表する ねらい：研究の態度、基本的な研究の進め方を実践を通して学ぶ。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の探求したい意欲に添えるよう関心のある内容を実践可能性と調整する点に配慮した。 ・本年度は基礎領域内で研究発表会を実施できた。調査研究を中心にひとつひとつの研究過程を学ばせることができたので、目的は達成された。 ・できる限り対面での指導をこころがけて、学生の反応を確かめながら進めていった。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 災害看護学（1単位、4年次）
②内容・ねらい（自由記述） 内容：災害看護に関わる基本的な知識を理解し、災害時に看護職の果たす役割を知る ねらい：過去の災害時の活動内容等から学び、シミュレーションによる実践力向上を目指す
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・災害看護に関しては実習による学びが不可能であるため、シミュレーションによる演習プログラムがある。今年も福井県赤十字社の協力を得て、避難所運営ゲームを取り入れ当事者としての動きをシミュレーションで学んだ。 【ゲストスピーカー 1名】
(2)その他の教育活動
内容 福井県健康政策課の依頼により県内企業で女性の健康セミナーを実施。外国人就労者向けに生理やPMS等に関する内容を講義した。また、外国人支援団体からの依頼で在住外国人親子向けの健康教室(12/21(日)多文化子育てひろば)を実施。国際交流協会の依頼で(1/28(水)外国人患者対応セミナー)で講師とシンポジウムのファシリテーターを予定。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書
【0本】

②学術論文（査読あり）	【0 本】
③その他論文（査読なし）	【0 本】
④学会発表等	【0 件】
⑤その他の公表実績	【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
なし	
(3)特許等取得	
なし	
(4)学会活動等	
日本看護研究学会 近畿・北陸地方会看護研究セミナー委員 コ・メディカル形態機能学会第 23 回学術集会企画委員	

5. 地域・社会貢献活動

⑤JANPU(一社 日本看護系大学協議会)災害連携教員担当 R5.4～現在に至る 福井県健康福祉部健康医療局健康政策課の R7 年度「企業保健室」事業に参画。担当企業を訪問し健康問題のヒアリング、健康講座、個別面談などを実施 R7.7～現在に至る
--

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
看護学科内 実習検討委員会 2025 年度
(3)学内行事への参加
入学時オリエンテーション
(4)その他、自発的活動など

コミュニティ・ナース活動。福井県で独立看護師・保健師として株式会社 オリナスを起業した加藤瑞穂氏とともに地域での“看護”活動への参画と、大学教員としてのバックサポートを継続中。